

レファレンス型ガイダンス

教育プログラムと連携した指導内容の構築

7班

現状と問題点

- ・1回で内容をつめこみすぎている
- ・1回1回のガイダンスに隔たりがある
- ・「学びの好機」を逃している

解決するには

- ・ガイダンスをステップアップ式にかえる
- ・回数を行い、内容を分散させる
- ・教員と連携して、シラバスの内容と構成やタイミングを合わせる
- ・1回きりではなく、授業と伴走するような形で

レファレンス型ガイダンスとは

シラバスに示された目標値や教員のニーズを元に、学生が必要とするような内容・タイミングで行うガイダンス

→ピンポイント型

具体例 D大の場合

目的:レファレンス型ガイダンスの実施

問題点:シラバス・授業に対応したガイダンスを行えておらず、学生が効果的に資料を発見・入手できていない

目標:シラバスを元に作成したガイダンス企画案を教員に提案する

具体例

シラバスを見ると…

物理実験 口組

授業のねらい: 実験の方法とレポート作りの
技術を身につける

具体例

図書館で何ができるか

- ・ 先行研究の探し方
- ・ 先行研究の入手の方法
- ・ 論文(参考・引用文献)の読み方・書き方

具体例

どういった企画をつくるか
→「学びの好機」を意識する

構成とタイミングを教員に選んでもらうことで、
「学びの好機」を得る

具体例

構成

①探し方

DB

②入手方法

図書館、ILL、

web

③引用の扱い方

タイミング

①1回

②複数回

授業進行に合わせて

③授業外

希望者中心

おわりに

**レファレンス型ガイダンスは、それぞれの
ケースに応じて展開する**

**→レファレンス型ガイダンスを持ち帰って、
それぞれの館でがんばります**